

## 第2章

「京の子ども元気なからだ  
スタンダードPLUS+」に  
挑戦しましょう

# 1 各動作課題の判定（評価）について

スタンダードPLUS<sup>+</sup>の動作課題を測定した時に、動作の“出来ばえ”を「うまくできる（4評価）」、「できる（3評価）」、「不十分な動作（2評価）」、「まったくできない（1評価）」の4段階で判定して動作の獲得状況を把握します。

◎「スタンダードPLUS<sup>+</sup>」の判定（見取り）手順

「スタンダードPLUS <sup>+</sup> 」の判定ステップと結果		
【ステップ①】	【ステップ②】	
できている	「うまくできる（4評価）」	（正確に、安定して、すばやく等）
	「できる（3評価）」	（なんとかできる、一応できる等）
できていない	「不十分な動作（2評価）」	（ぎこちない、不安定等）
	「まったくできない（1評価）」	

## 【判定のポイント（見取り方）】

●動作を見取る時には、次のように2段階で見取ると判定し易くなります。

### 【ステップ①】

まず、動作課題が“できている”のか“できていない”のか判定する。

### 【ステップ②】

次に、“できている”と判定した場合ならば、その動作が「うまくできる（4評価）」または、「できる（3評価）」のどちらかに分類する。

（※【ステップ①】で“できていない”と判定した場合は、「不十分な動作（2評価）」または、「まったくできない（1評価）」のどちらかに分類する。）

## 〔補 足〕 【ステップ①】の“できている”“できていない”の判断方法

各動作課題には、①～④の見るポイント<sup>①</sup>を提示しています。  
この見るポイント<sup>①</sup>を利用して、動作獲得を判定する目安として活用して下さい。

“できている”（「できる（3評価）」）  
見るポイント<sup>①</sup>の①と②の動作が両方できている場合

“できていない”  
見るポイント<sup>①</sup>の①と②のどちらか1つしかできていない場合

※ 見るポイント<sup>①</sup>の③や④の動作は、“できている”の「うまくできる（4評価）」を判断する基準として活用します。

## 2 指導用資料の活用の仕方について

例

### 「移動しながら、ボールを投げたり蹴る」動き

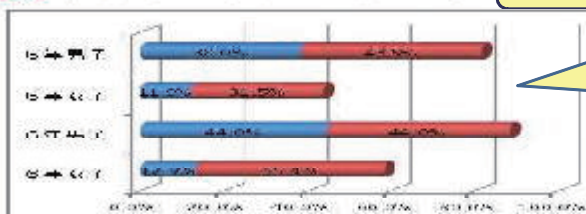
1-2『キャッチ&スロー

動作課題

目標レベル

移動しながら、ねらった所へ正確に

「できる」レベルの判定基準



「うまくできる」「できる」  
子どもの割合【成就率】  
を示している。

準備物

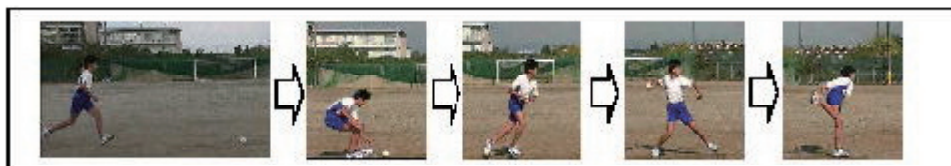
ソフトボール、グローブ（補助者用）

実施方法

「ボールを拾って、ねらった所に投げよう」

動作の見本を見せながら、子どもたちに説明する際の言葉。  
現状のレベルを判定するため、動作の具体的なアドバイスは行わない。  
子どもが動作を理解できるような指示となるようにする。

【実施回数】 2回（練習1回＋試技1回）



見るポイント 「走りながらボールを取る」「投げ方」「コントロール」

【右利きの場合】

- ①助走の動きを止めることができる。
- ②10m先の相手または目標物に対して正確にボールを投げることができる。
- ③捕球後は、スピードを維持しながら走り続ける（ボールをコントロールし、目標物になり）、体全体を使ってボールを投げることができる。
- ④一連の動作で、スムーズに行うことができる。

測定者が子どもたちの動きを見取る時のポイント

ポイント①と②が概ねできている場合、「3：できる」の評価になる。

【評価例】「4：うまくできる」「3：できる」「2：不十分な動作」「1：まったくできない」の4段階評価

「3：できる」の評価例：見るポイント①と②の両方が概ねできている。

「2：不十分な動作」の評価例：目標に対して正確に送球できない。

相手または目標物までボールが届かない。  
ある程度、正確に送球できているが、投げる手と同じ側の足を出して投げている。

動作の評価例